

## 令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	みんなの村こどもカフェ
事業主体 (連絡先)	認定特定非営利活動法人フリーキッズ・ヴィレッジ (0265-94-5028/080-1274-1109)
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	753,000円 (うち支援金: 602,000円)

### 事業内容

昨年度に続き、水曜日のこどもカフェ活動を続けて、さらにたくさん子どもに「みんなの村」が居場所として選ばれるようにするだけでなく、火曜日、木曜日の日中も不登校の子ども達が来られる場所「フリースクール」として開放した。伊那市内の小中学校にも発信し、学習・発達支援も行った。

●水曜日！みんなの村こどもカフェ（放課後）  
地域の大人と共に、補助食（おやつ）作りと遊び場開放を行った。

●火曜日・木曜日！みんなの村プレーパー（10：00～14：00）  
みんなの村でできる活動（運動等）を増やし、専門家と共に不登校の子どもたちの学習・発達支援も行った。

### 事業効果

- ① 地域の大人に見守られる中、異年齢の仲間と遊び、学ぶことを通して満たされ、力を身につけていく様子が見えた。
- ② 赤ちゃんからお年寄りまで、幅広い年齢層が集まり、一緒に活動することで、仲良くなってきた。村の中で会っても挨拶する姿を良く見かけた。
- ③ 村の中で声かけ合う人が増えることは、それだけ地域が安心の場所になっていること。その効果もあってさらに、居場所として定着して行った。
- ④ 不登校の子どもたちが、運動や馬との触れ合いを通して、本来の力を発揮した。小学生たちは学校へと戻り、中学生達も、自分達で楽しいことを企画するほど良意欲的になった。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

2年の活動を通して、子ども達の居場所として選ばれるようになり、今年度の夏以降には、毎日開催するフリースクールが立ちあがった。たくさん子ども達が参加し、小学生は学校へ復帰したが、それでもまだ家で引きこもっている子どもがいる現状があり、相談も受けている。今後も家や学校に居場所のない子ども達の「地域の居場所」となるため、助成金を頂かなくても活動を続けていくために、伊那市の中間教室扱いを受けるべく、来年度は活動の充実を図る。1つは、講師を充実させて活動の内容を充実させる。もう一つはどんな天候の時にも安心して活動できるように、小屋を改築して場を充実させる。その活動を通して、こどもも大人も環境の大事さを学ぶと同時に、自分達の居場所を仲間と一緒につくっていく喜びも体験できることを願っている。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【火曜日の様子】

### 【目標・ねらい】

- ① こどもの生きる力を育む
- ② 異年齢の交流
- ③ 安心な地域の居場所をつくる
- ④ 不登校の子ども達の発達、学習支援

### ※自己評価【A】

#### 【理由】

- ・参加者が昨年をさらに上回った。
- ・不登校の子どもたちにも欠かせない場としてフリースクールが誕生した。
- ・来年度の活動方針が見えた上に、活動協力者も増えてきた。